

参加者：

秋元、伊藤、内山、北島、斎川
斎藤、田中、土田、中島、町田
安田、山岡、
ゲスト；千葉

BMW RS CLUB

かわらばん

Oct 1~2, 05

木曽路から飛騨高山を抜け
下呂温泉の名湯「水明館」へ

かわらばん：中島邦雄 挿絵：小倉玲子

中央高速を「塩尻IC」で降り「妻籠」や「馬込」に続くR19号に入ると、ススキにコスモスそして彼岸花の出迎えを受けました。道端の果樹園ではブドウが枝もたわわに実り、我々の走る木曽路の周囲は秋の風情に満ちあふれています。道路わきの標識が気温19度を示しています。右手には木曽桧で知られた桧や杉の林が林立し、「うるし細工」の店が並び始めました。輪島塗りや高山の春慶塗りに見られるように、かつては人里離れた深い雪に道も閉ざされた中で、人々がこのような仕事を連続と継承しつつ今日に至っているのでしょうか。お店を覗いてその見事な職人技を眺めてみたいと思いました。此処は昔からの路で狭い上にトラック等の迂回路にもなり、道路の真ん中には何処までも黄色の線がベックタリでした。それ違いにパッキングのサインを出したトラックが居て、気を付けて走ると、その先の横町にコソ泥みたいに白バイが隠れて居ます。こんな田舎のお芋に捕まつたら、江戸っ子のご先祖様が墓から飛び出してきて、張り飛ばされる事でしょう。

楽しみにしていた一泊ツーリングの日を迎え、心配していた天気もどうやら大丈夫そうで、今日の集合地[中央道「談合坂SA」]へ向かうと首都高速から混み合っています。日ごとに秋めいてきて、外出をしたいと思うのは誰もが同じなのでしょうか。渋滞の中を進むと先ず相模湖手前のトンネル内で追突事故があり、トンネルを出たところで今度は四重衝突、更に藤野出口の500メートル手前で、なんと三重衝突が有りました。はた迷惑だから車間距離をとり、気をつけてくれよ～余り飛ばすなよ～？茨城県から常磐道で来て初めて首都高速に乗り、さらに中央道へ走り継いで来たという長老町田さんも早々に来ていました。出席予定の山岡さんは結婚してから余りバイクには乗らないようで、バッテリーが上がって充電中とか。連絡を取りながら一足先に出て何処かで合流する事になり、九時に九台で「諏訪湖SA」へ向けて出発しました。やや雲が多いものの爽やかな中を飛ばしていると、南アルプス連峰が雲の中から顔を出し、富士の次ぎに高い北岳が一際高く聳えていました。周囲はもう秋です。一時間ほど到着してガス補給を済ませ、すぐ先の塩尻ICへ向かい、前述のようにR19から開田高原へと向かいました。

一時間ほど走って大きな休憩所で一休みし、木曽福島を経由してR361(木曽街道)に入りました。道が広がり誰もが生き返ったかのようにすっ飛び、12時20分に開田高原の手打ちそば処に着きました。この蕎麦屋で能登から来た10人ばかりのバイク野郎と一緒にましたが、この日は暫く走ってから諏訪湖に泊まるとか。お互いに“気をつけてね”と別れました。ここで出てきた蕎麦は一番粉を使ったやや幅広で黒く、隣の席の蕎麦好きと称する町田さんは、これは最高の蕎麦だと絶賛していました。我々は「もう少し香りが欲しい感じかな」と話し合いましたが、蕎麦の好みは人それぞれですのでここは沈黙。此処から山道をご機嫌で走り抜け高根ダムのほとりで一休み。今年は残暑が長く厳しかったからか、山の中でも僅かにハゼとカエデが色づいたのみで、湖畔から周囲を見回しても秋色に染まった木々は殆ど見られませんでした。「ああ野麦峠」で有名な峠は此処から少し行った処です。「昔の人は力が有ったね～」と田中さんと話しましたが、病気で痩せ細った妹とはいえ、よくぞこんな山道を背負って故郷へと歩いたものです。私の女房だったらそのまま姥捨山へ連れて行きます。混む町中を避けて高山を抜け、川沿いの素敵な「せせらぎ街道」の走りを堪能しました。途中で休んだ時に無線で山岡さんに呼びかけましたが山に遮られてか応答無しでしたが、後になって意味不明ながら私の無線が届いていた事を知りました。

下呂への最後の道はケモノ道とは言わないまでも、昔は木ゴリでも歩いたかと思うような細い道でした。川沿いの通りへ下り、少し走ると目指す「水明館」に四時ジャストに到着し、遅れて出発した筈の山岡さんが我々を出迎えてくれました。汚い恰好で館内に入るとお香がたきこまれ、テーブかと思ったらピアノの前で甘い声の女性がバラードを歌っています。私の好きな曲で暫く立ち聞きをしていたら、私に気づいて小さく手を振った笑顔の彼女は、髪の長いチャーミングな女性でした。

七階に三部屋が準備され、安田さんが抱えてきた「越の寒梅」の封が早速に切られ、風呂に入る前のご開帳ならぬ口濡らしの開始です。昼飯時は当然としても24時間近くも飲んでいませんから、酒もビールも五臓六腑に染み渡るかのようでした。そこに車で来たと言う土谷さんと彼の友人の千葉さんが到着し、我々の輪に入り一緒に飲み始めましたが、もう越の寒梅は殆ど空いていました。適当に下地造りを切り上げ楽しみにしていた温泉へ向かいました。

此処には露天風呂、桧風呂、天井風呂の三つが有りました。下呂の湯は日本三大名湯の一つに数えられていますが、恥ずかしくなる程に透明で、体に石鹼でも残っているかのようにツルツルする湯質でした。少々ぬる目の湯で熱いのにサッと入るのが好みの私には最初は不満でしたが、ゆっくりと露天風呂につかり、風呂から出たら体がポカポカしていました。後になって部屋付きの仲居さんが「体の芯まで温まるので、下呂には治療に来る人も多いのですよ」と教えてくれました。

お昼は蕎麦だけで腹も減り、お待ち兼ねの「宴会の準備が出来ました」という電話で一階の静かな日本間にいると、部屋にはさりげなく花が一輪いけてあり、先程の仲居さんが目には付かないけれどもまめまめしく我々の世話をしてくれました。

松茸と鱧(はもの)の土瓶蒸しにカボスを絞ると、秋を食べている
気分になりました。山道を抜けながら400キロを走り抜け、
温泉を浴びて気持ちもほぐれ、何ともホットする一時
これこそが旅の、特にバイクによる旅の素晴らしさな
であります。そこへ明日の朝に来る予定の斎川
さんが仕事を早目に切り上げて飛んで来
ました。高島平を出て諏訪湖で一休みし
のまま中津川ICを経由して、
370キロを3時間半ですっ飛ばして來た
そうです。彼の執念と熱意にびっくりです。

町田さんも今回は最後まで眠らずに宴会をこなし、
部屋に戻って斎川さんから差し入れの焼酎などを飲み
つつ何時ものように彼の性事談義が始まりました。ところが今回はいつ間にか性事ならぬ政治談義に移り、小泉さん
の政治手腕や、彼の東南アジアに対する政治姿勢の劣悪さなどに

話題が移りました。先日の選挙で当選した若造がバカを
言って物議をかもし出した、その程度の悪さに比べ
我がクラブ員の博学さ、教養の高さ常識の豊
さ(?)に耳を傾けました。平素はバカばり
言っていても大人です。飲んで騒いで
盛り上がって些か疲れ、何人かで
天井温泉へ行ってみました。
真っ暗な中で眼下の下呂駅が明
るく浮かび上がり、模型の駅舎を見
ているかのようでした。カラオケに
行こうとかニューハーフ(オカマ)のク
ラブに行こうとか景気の良い事を言つて
いた連中も、一日中走り回り風呂を浴びて酒
を飲んで、さすがにその元気も無いか、いつの間に
か部屋にはイビキや寝言が満ち満ちていました。

まだ暗い中でそっとカーテンを開けると、心配していた天気はどうやら大丈夫そうです。外は段々と明るさを増し、霧の中から雲を巻き付けたように森が浮かび上がりました。宿の人が言うには中津川の方へ下れば雨の心配は無いが、山へ回れば間違いない降るでしょうとのこと。町田さんは瀬戸に用が有り名古屋へ向かい、内山、田中、山岡の三氏もこの方向へ進み、土田さんとゲストの千葉さんは車で、やはりこの方面へ帰ったようです。田中さんから「いい天気ですよ～」という無線連絡です。残った秋元、伊藤、北島、中島、斎川、斎藤、安田の7台で、雨と言わされた山の方へ向かいました。又々“せせらぎ街道”を走り、高山から安房トンネルを抜けました。上高地の入り口、釜トンネルを左に見ながらかなり車の多い道を下り、沢渡、新島々を抜けて松本へ下りました。時折、霧雨に降られましたがノンビリ走った私と伊藤さんは合羽も着ずに走れた程度でした。雨に濡れた山の中の走りは、まさに墨絵の世界の中そのものでした。素晴らしい二日間でした。幹事の方々のお骨折りに感謝、感謝です。